

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300545		
法人名	医療法人 洪藤医院		
事業所名	グループホーム 佐伯		
所在地	岡山県和気郡和気町父井原434-5		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372300545-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372300545-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 25 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた静かな所です。散歩等に行き、四季の移ろいを感じながら暮らしています。近くにはコンビニ、サエスタ、郵便局、農協、ガソリンスタンド、歯科医院があり、敷地内には母体法人の医療機関があり、緊急時には医師によりすぐに対応出来安心です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人生の中で涙した事が介護する度に蘇り、その苦労を二度と味わいたくないとオーナーの指示に従い、全て熟して施設づくりに励んでいる管理者がいた。少しでも希望を叶えようと近くのコンビニまで足を運び、地域の人と何でも話せる関係を積み重ねている。「お互いに頑張ろうな」と、コロナ禍で、コンビニの店長と励まし合い縁を深めている。また、食事中に評価員が「お味は如何ですか?」と尋ねると、利用者の方全てが、一斉に顔を持ち上げ、ニコッと微笑み返しをしてくれた。その姿が今でも残っている。歩行訓練をして欲しいと家族の要望で、総合施設の特徴を活かして、リハビリの先生の協力が得て希望通りになった。どんな事も利用者がいつでも主役となるよう笑顔でお手伝いしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム佐伯の理念として、安全に安心してご自分らしく、仲間と一緒に地域の一人として暮らせるよう笑顔でお手伝いしています。	各ユニットの事務所とホールに理念を掲示し、職員に周知を図っている。新しい職員には理念をプリントして説明・配布し、理念に沿った介護に努められるような体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの為に中止。	利用者と一緒に道路の向かいのコンビニに珈琲を買いに行ったり、プリントのコピーに行ったり、店長やスタッフとこのコロナ禍でなんとかしようと「お互い仕事を頑張ろうな」と励まし合い、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為に中止。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、参加してもらえない為、GHのみで取り組む。	2ヶ月に1回、役場の介護保険課・民生委員・家族に文章で会議の内容を郵送している。内容は、事業所の行事報告や予定、入退所情報、ヒヤリハット報告、地域の情報や研修案内等について話し合った内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの為に中止。	各ユニットの管理者が窓口となり、主に電話を役場と連携を図り、ケアサービスに取り組んでいる。毎月の職員会議で出た疑問点を行政に質問をし、充実したケアに結んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、勉強会をしたり等、拘束についての正しい知識を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束委員会も設置し実施している。	三か月毎に身体拘束廃止委員会にて事例を使い、質の維持と向上に努めている。医師の指示の元、家族と相談をしながら、どうしても必要な場合に限り、尊厳を守って対応しており、適切なタイミングで見直している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修に行き学ぶ機会を持ち、勉強会をして職員間でも学び、全員が虐待の無き事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの為、機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際は、十分な説明を行い、不明点、疑問点があれば理解していただだけ納得していただける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望を聞き、家族には状況を報告し、面会時や家族会等で意見交換をしている。今年は年賀状を出した。	入浴タイムや夜勤で一緒にテレビを観ている時の何気ない会話から本音を汲み取ろうとしている。『家族に会いたいな〜』という言葉は次の日には忘れる利用者に家族と電話で繋ぎ、家族の意向も引き出そうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。出された意見はケアの方法や勤務体制の見直しに反映している。	月1回の職員会議の中で、意見や提案を聞き取る。また、日ごろから管理者と気軽に話せる関係となっている。今年から海外の方も職員に招き、互いの文化や人間性を尊重しながら、チームワークを築こうと取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得による給料アップや研修への参加や勉強会で自己啓発を勧めたり、パートの人には希望の勤務日数に配慮をしたり、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が資格の向上や研修の参加、月に1度は勉強会をしている。それぞれが自己啓発できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為できない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時より、本人とのコミュニケーションを密にし、何でも話せて不安なく安心して過ごせるよう、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、要望や困っていることを聞き、利用者の日頃の状態を報告して安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や家族の要望等をしっかり把握した上で、今必要としている支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を利用者が家族のような関係を持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為、家族の参加ができない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できていない。	利用者毎に、庭や植木にお気に入りの場所があり、煙草を吹かしたり、日向ぼっこで過ごされる。また、馴染みの文化センターへ散歩や、近所の人や知人の来訪もあり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	身近な所に馴染みの場所を見出しては如何でしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないよう、職員も利用者の中に入って、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの会話や一日の過ごし方等から本人の思いや今までの暮らし等の把握をし意向に沿えるよう努めている。	入浴タイムや夜勤で一緒にテレビを観ている時の何気ない会話から本音を汲み取っている。『家族に会いたいな〜』との言葉も次の日には忘れる利用者に、家族と電話で繋ぎ、家族の意向も同時に引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、一人ひとりの生活歴を把握し、職員間で共有し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや排泄チェック等を行い、介護記録や食事量等をスタッフ全員で把握し、一人ひとりの心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況を把握し、今後の課題とケアについて職員間で意見を出し合い、現状に合ったプランを作成している。また、状況に応じて柔軟に対応している。	入居時のアセスメントから作ったプランを、3か月毎に見直す事を原則とし、日頃の状況を把握し、今後の課題とケアについて職員間で意見を出すことで、医師や医療スタッフと協力して現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の生活状況や実践結果を記録して職員間で情報を共有し、サービスに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないこと、柔軟な対応を心がけ、ニーズに応じたサービスの提供に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診している。夜間や急変時の対応や必要時には入院対応もできる母体の医療機関との関係も円滑である。	入居時に殆どの方が敷地内の母体の医療機関に転院される。他のかかりつけ医の場合、家族が受診を介助し、理事長の往診が週2日程度ある。24時間体制の下、いつでも連絡できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である医院の看護師が相談や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護師との情報共有を行い、入退院をスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族との話し合いを行う中で、家族の希望を踏まえて、先生の方針もあるのでその状況に応じて対応している。	看取りをしている。看取り期に入る前に、主治医に相談しつつ、揺れる家族の意向や気持ちを考慮しながら、他の施設を紹介して対応している。マニュアルがあるので、いつでも看取りが始められる様に、エンゼルセットを常備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には母体の医院の院長の指示を仰いでいる。避難訓練時、消防署に依頼し、応急手当や初期対応の訓練を受け、実践力を身につける様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で災害時や夜間の訓練も利用者と共に、避難経路・避難方法を確認している。地域との協力体制を築いて行きたい。	年2回夜間想定のもと、利用者も参加して火災の避難訓練を実施している。消防署から訓練ビデオを借りて研修を実施している。また、緊急連絡網を使用した訓練も実施している。水は一週間、食材は、三日分程度確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をスタッフ間で注意しながら心掛けている。	呼称は、苗字に『さん』付け。その後、家族に確認を取り、一人ひとりの気持ちや暮らしぶりを尊重しながら、利用者が気に入る呼び方で話しかけている。利用者が落ち着いて暮らせる様にケアしている。	三密や換気に配慮しつつ、利用者の肌の露出に、今以上に気配りしてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を汲み取り、自己表現・自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、こちらのペースに合わせるのではなく、ご本人の思いを大切にし、ご自分らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容師に希望の髪型にしてもらったり。入浴時には好みの洋服を職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立に基づき、職員が手作りしている。職員と一緒におやつ作りをしたりしている。後片付け・掃除も手伝っている。	下膳をしたり、おはぎを作ったり「今日はカレーよ～」「誕生日会のケーキよ～」と言葉をかけて聴覚に刺激を得ている。評価員が昼食中に「お味は如何ですか～？」と言葉をかけると、皆、一様に満面の笑みを浮かべた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた献立を栄養士が作成している。牛乳以外にも野菜ジュースも飲んでいる。食量低下の時にはドクターの指示で栄養補助食品も摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後行い、清潔保持に努めている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用し、除菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者の排泄リズムを把握し、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導をしている。	利用者毎の排泄パターンから、利用者が、言葉かけを受けてケアしている。オムツやパット等は、利用者には少しでも快適に、家族には経済的に使おうと意識している。また、失敗しても「大丈夫よ～」と慌てず穏やかに言葉を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳や野菜ジュースの飲料や適度な運動も心掛けている。献立も野菜が多く摂れるメニューになっている。それでも排便がない時は、薬剤によりコントロールも行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。無理強いせず、時間やタイミングを見ながら声かけし、気持ちよく入浴できるよう努めている。足浴やシャワー浴、清拭等個々に沿った支援をしている。	週2回の入浴を基本としており、希望があれば毎日でも入浴可能としている。入浴を嫌がる時は、利用者の状態・状況に合わせて日時や職員を変更しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、日中でも居室で休まれたり、夕方でも外出後に休まれたりする。就寝前には必ずトイレを済ませるよう声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を把握し、きちんと服薬できるよう支援している。利用者別の薬一覧があり、職員も効能を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いが出来る方には決まった役割を持ってもらい、毎日のレク活動やカラオケ、季節の行事、誕生日会、おやつ作り等、楽しみや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できていない。	利用者の希望に合わせ洗濯物を干したり、庭に煙草を吹かしに行ったり、隣のコンビニに買い物に行ったりして、外出を楽しんでいる。事務所内を自由に出入り出来る様に工夫して、外出が困難な方に配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの人の預り金は実施していないが、要望により数人の方の預り金を行い、欲しい物を職員が購入する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により、その都度家族に連絡を取る支援を行っているが、電話は家族の負担にならない程度にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の間のフロアは広く、ベランダの窓が高いので明るく遠くまで景色を眺めることが出来る。フロアでは歩行訓練をしたり、運動会等の行事を行っている。吊るし飾、ちぎり絵等、季節ごとに変えて四季を感じられるよう工夫している。	事務所も含めた共有スペースという考えなので、フロアはとても広く感じる。壁一面の窓から、季節を感じられ、景色が一望出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは隣に座った方と談話したり、テレビを観たり、一人窓辺で外の景色を見たり、フロアを散歩しながら貼ってある写真を見たりと、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた馴染みの物を置いたり、家族の写真やぬいぐるみ等を飾っている。職員手作りの誕生日カードを飾ったりと、利用者が穏やかに過ごせるよう雰囲気作りをしている。	居室毎に、職員お手製の誕生日カードとペーパーフラワーが飾られ、雰囲気が明るい。個々に馴染みの物を持参したり、自分の作品を飾ったりして、その人らしい我が家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには歩行や移動の際に妨げになる様な物を置かない様にして、安全に自立した生活が送れるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372300545		
法人名	医療法人 洪藤医院		
事業所名	グループホーム 佐伯		
所在地	岡山県和気郡和気町父井原434-5		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372300545-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372300545-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 25 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた静かな所です。散歩等に行き、四季の移ろいを感じながら暮らしています。近くにはコンビニ、サエスタ、郵便局、農協、ガソリンスタンド、歯科医院があり、敷地内には母体法人の医療機関があり、緊急時には医師によりすぐに対応出来安心です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人生の中で涙した事が介護する度に蘇り、その苦労を二度と味わいたくないとオーナーの指示に従い、全て熟して施設づくりに励んでいる管理者がいた。少しでも希望を叶えようと近くのコンビニまで足を運び、地域の人と何でも話せる関係を積み重ねている。「お互いに頑張ろうな」と、コロナ禍で、コンビニの店長と励まし合い縁を深めている。また、食事中に評価員が「お味は如何ですか?」と尋ねると、利用者の方全てが、一斉に顔を持ち上げ、ニコッと微笑み返しをしてくれた。その姿が今でも残っている。歩行訓練をして欲しいと家族の要望で、総合施設の特徴を活かして、リハビリの先生の協力が得て希望通りになった。どんな事も利用者がいつでも主役となるよう笑顔でお手伝いしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム佐伯の理念として、安全に安心してご自分らしく、仲間と一緒に地域の一人として暮らせるよう笑顔でお手伝いしています。	各ユニットの事務所とホールに理念を掲示し、職員に周知を図っている。新しい職員には理念をプリントして説明・配布し、理念に沿った介護に努められるような体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの為に中止。	利用者と一緒に道路の向かいのコンビニに珈琲を買いに行ったり、プリントのコピーに行ったり、店長やスタッフとこのコロナ禍でなんとかしようと「お互い仕事を頑張ろうな」と励まし合い、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為に中止。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、参加してもらえない為、GHのみで取り組む。	2ヶ月に1回、役場の介護保険課・民生委員・家族に文章で会議の内容を郵送している。内容は、事業所の行事報告や予定、入退所情報、ヒヤリハット報告、地域の情報や研修案内等について話し合った内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの為に中止。	各ユニットの管理者が窓口となり、主に電話を役場と連携を図り、ケアサービスに取り組んでいる。毎月の職員会議で出た疑問点を行政に質問をし、充実したケアに結んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、勉強会をしたり等、拘束についての正しい知識を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束委員会も設置し実施している。	三か月毎に身体拘束廃止委員会にて事例を使い、質の維持と向上に努めている。医師の指示の元、家族と相談をしながら、どうしても必要な場合に限り、尊厳を守って対応しており、適切なタイミングで見直している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は研修に行き学ぶ機会を持ち、勉強会をして職員間でも学び、全員が虐待の無いよう事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの為、機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際は、十分な説明を行い、不明点、疑問点があれば理解していただけた納得していただける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望を聞き、家族には状況を報告し、面会時や家族会等で意見交換をしている。今年は年賀状を出した。	入浴タイムや夜勤で一緒にテレビを観ている時の何気ない会話から本音を汲み取ろうとしている。『家族に会いたいな〜』という言葉は次の日には忘れる利用者に家族と電話で繋ぎ、家族の意向も引き出そうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。出された意見はケアの方法や勤務体制の見直しに反映している。	月1回の職員会議の中で、意見や提案を聞き取る。また、日ごろから管理者と気軽に話せる関係となっている。今年から海外の方も職員に招き、互いの文化や人間性を尊重しながら、チームワークを築こうと取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得による給料アップや研修への参加や勉強会で自己啓発を勧めたり、パートの人には希望の勤務日数に配慮をしたり、向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が資格の向上や研修の参加、月に1度は勉強会をしている。それぞれが自己啓発できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為できない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時より、本人とのコミュニケーションを密にし、何でも話せて不安なく安心して過ごせるよう、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、要望や困っていることを聞き、利用者の日頃の状態を報告して安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態や家族の要望等をしっかり把握した上で、今必要としている支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を利用者が家族のような関係を持てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの為、家族の参加ができない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できていない。	利用者毎に、庭や植木にお気に入りの場所があり、煙草を吹かしたり、日向ぼっこで過ごされる。また、馴染みの文化センターへ散歩や、近所の人や知人の来訪もあり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	身近な所に馴染みの場所を見出しては如何でしょうか？
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することのないよう、職員も利用者の中に入って、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの会話や一日の過ごし方等から本人の思いや今までの暮らし等の把握をし意向に沿えるよう努めている。	入浴タイムや夜勤で一緒にテレビを観ている時の何気ない会話から本音を汲み取っている。『家族に会いたいな〜』という言葉も次の日には忘れる利用者に、家族と電話で繋ぎ、家族の意向も同時に引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き、一人ひとりの生活歴を把握し、職員間で共有し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや排泄チェック等を行い、介護記録や食事量等をスタッフ全員で把握し、一人ひとりの心身状態、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状況を把握し、今後の課題とケアについて職員間で意見を出し合い、現状に合ったプランを作成している。また、状況に応じて柔軟に対応している。	入居時のアセスメントから作ったプランを、3か月毎に見直す事を原則とし、日頃の状況を把握し、今後の課題とケアについて職員間で意見を出すことで、医師や医療スタッフと協力して現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の生活状況や実践結果を記録して職員間で情報を共有し、サービスに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないこと、柔軟な対応を心がけ、ニーズに応じたサービスの提供に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診している。夜間や急変時の対応や必要時には入院対応もできる母体の医療機関との関係も円滑である。	入居時に殆どの方が敷地内の母体の医療機関に転院される。他のかかりつけ医の場合、家族が受診を介助し、理事長の往診が週2日程度ある。24時間体制の下、いつでも連絡できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である医院の看護師が相談や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護師との情報共有を行い、入退院をスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族との話し合いを行う中で、家族の希望を踏まえて、先生の方針もあるのでその状況に応じて対応している。	看取りをしている。看取り期に入る前に、主治医に相談しつつ、揺れる家族の意向や気持ちを考慮しながら、他の施設を紹介して対応している。マニュアルがあるので、いつでも看取りが始められる様に、エンゼルセットを常備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には母体の医院の院長の指示を仰いでいる。避難訓練時、消防署に依頼し、応急手当や初期対応の訓練を受け、実践力を身につける様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で災害時や夜間の訓練も利用者と共に、避難経路・避難方法を確認している。地域との協力体制を築いて行きたい。	年2回夜間想定のもと、利用者も参加して火災の避難訓練を実施している。消防署から訓練ビデオを借りて研修を実施している。また、緊急連絡網を使用した訓練も実施している。水は一週間、食材は、三日分程度確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をスタッフ間で注意しながら心掛けている。	呼称は、苗字に『さん』付け。その後、家族に確認を取り、一人ひとりの気持ちや暮らしぶりを尊重しながら、利用者が気に入る呼び方で話しかけている。利用者が落ち着いて暮らせる様にケアしている。	三密や換気に配慮しつつ、利用者の肌の露出に、今以上に気配りしてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を汲み取り、自己表現・自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、こちらのペースに合わせるのではなく、ご本人の思いを大切にし、ご自分らしく暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容師に希望の髪型にしてもらったり。入浴時には好みの洋服を職員と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立に基づき、職員が手作りしている。職員と一緒におやつ作りをしたりしている。後片付け・掃除も手伝っている。	下膳をしたり、おはぎを作ったり「今日はカレーよ～」「誕生日会のケーキよ～」と言葉をかけて聴覚に刺激を得ている。評価員が昼食中に「お味は如何ですか～？」と言葉をかけると、皆、一様に満面の笑みを浮かべた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた献立を栄養士が作成している。牛乳以外にも野菜ジュースも飲んでいる。食量低下の時にはドクターの指示で栄養補助食品も摂っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを毎食後行い、清潔保持に努めている。また、定期的に義歯洗浄剤を使用し、除菌を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で利用者の排泄リズムを把握し、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導をしている。	利用者毎の排泄パターンから、利用者が、言葉かけを受けてケアしている。オムツやパット等は、利用者には少しでも快適に、家族には経済的に使おうと意識している。また、失敗しても「大丈夫よ～」と慌てず穏やかに言葉を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳や野菜ジュースの飲料や適度な運動も心掛けている。献立も野菜が多く摂れるメニューになっている。それでも排便がない時は、薬剤によりコントロールも行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としている。無理強いせず、時間やタイミングを見ながら声かけし、気持ちよく入浴できるよう努めている。足浴やシャワー浴、清拭等個々に沿った支援をしている。	週2回の入浴を基本としており、希望があれば毎日でも入浴可能としている。入浴を嫌がる時は、利用者の状態・状況に合わせて日時や職員を変更しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、日中でも居室で休まれたり、夕方でも外出後に休まれたりする。就寝前には必ずトイレを済ませるよう声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を把握し、きちんと服薬できるよう支援している。利用者別の薬一覧があり、職員も効能を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いが出来る方には決まった役割を持ってもらい、毎日のレク活動やカラオケ、季節の行事、誕生日会、おやつ作り等、楽しみや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できていない。	利用者の希望に合わせて洗濯物を干したり、庭に煙草を吹かしに行ったり、隣のコンビニに買い物に行ったりして、外出を楽しんでいる。事務所内を自由に出入り出来る様に工夫して、外出が困難な方に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの人の預り金は実施していないが、要望により数人の方の預り金を行い、欲しい物を職員が購入する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により、その都度家族に連絡を取る支援を行っているが、電話は家族の負担にならない程度にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の間のフロアは広く、ベランダの窓が高いので明るく遠くまで景色を眺めることが出来る。フロアでは歩行訓練をしたり、運動会等の行事を行っている。吊るし飾、ちぎり絵等、季節ごとに変えて四季を感じられるよう工夫している。	事務所も含めた共有スペースという考えなので、フロアはとても広く感じる。壁一面の窓から、季節を感じられ、景色が一望出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは隣に座った方と談話したり、テレビを観たり、一人窓辺で外の景色を見たり、フロアを散歩しながら貼ってある写真を見たりと、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使っていた馴染みの物を置いたり、家族の写真やぬいぐるみ等を飾っている。職員手作りの誕生日カードを飾ったりと、利用者が穏やかに過ごせるよう雰囲気作りをしている。	居室毎に、職員お手製の誕生日カードとペーパーフラワーが飾られ、雰囲気が明るい。個々に馴染みの物を持参したり、自分の作品を飾ったりして、その人らしい我が家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには歩行や移動の際に妨げになる様な物を置かない様にして、安全に自立した生活が送れるようにしている。		